Pichari ～ピチャリ～
七飯町歴史館だより
第161号

ななえ古写真物語
VOL.161

スギとオウレン

戦時中の木材供出

昭和18年ころ

本町地区

ピチャリ第3号でも紹介した倉山卯之助の杉。概略を述べると、江戸期にはげ山となっていた箱館山に植林するため、七重村の土地でスギやトドマツなどの苗木を育成したのが、倉山卯之助という人物で、彼の植栽した杉は、現在も七重小学校グラウンド近くに10本ほど残されているほか、函館山の2合目付近に見られる。この功績は、北海道における植林事業の先駆として評され、大正7年に北海道開拓功労者の一人として表彰された。

ところが、太平洋戦争中に七重村に残っていた杉が、物資供出の名目のもと、幾本も切り落とされてしまう。伐採された杉を搬出している様子を紹介したのが、ピチャリ第3号である。

その後、当館では物資供出による卯之助の杉の伐採時の写真が幾つかあることがわかった。そのうちの一枚が、上に掲げた写真になる。中央にいる人物が、伐採用の大きなノコギリを片手に在しているのは切株。その背後には輪切りになった切株が、年輪を見せるようにして立てられ、多くの男たちが取り囲んでいる。座している男性、その背後に立つ男性共に成人と思われるので、切株は1mを超えるのではないかと想像される。かなりの大木である。

当館の収蔵台帳の備考欄には、この写真は、卯之助の杉が物資供出のために伐採された様子と記されているで、その記載を信じる事にするが、現存する卯之助の杉と比べてもはるかに大きいように思われる。いささか謎の残る写真ともいえる。

ところで、別の機会に調べた文献に面白い記述を発見した。それは、明治13年発行『開拓雑誌 第四號』に掲載された栗本鋤雲が著した「箱館叢記　七重村御薬園起源」で、そこには「（中略）村の名主卯右衛門（筆者は、卯之助の子孫と考えている）が屋後に老杉数章あり、其下に黄連を植付あり、又村内の寺に銀杏一樹あり、皆文化年中の品とあれば、傍此地を以て薬園花圃總て種芸に適するの所と為したるは…（中略）」とある。卯之助と卯右衛門の関係性を調べる必要があるが、興味深いのは老杉の近くに黄連を植えたという記載である。今でも、町内で最も太い杉の近くに、オウレンが咲く場所がある。これらを卯之助が植えたと仮定すると、実に200年以上経て、現在に残された計算となる。

さて真実は如何に。その解明も数多い私の宿題のひとつである。

日進月報

＜2021.4＞

今年度のジュニア探検クラブが始まりました。

今年度のジュニア探検クラブは感染対策を十分に行い、少人数で活動をしていきます。事前の申し込みでは、最近読んだ本の感想を書いてもらいました。個性が表れていて、どんな本に興味を抱いているのかを知る良い機会にもなりました。さて迎えた開講式、緊張した面持ちで集う子どもたちの自己紹介は、変化に富んでいました。幕末の歴史が好き。オニヤンマが好き。鉱石や魚が好き、等々。自分の興味のある分野を活き活きと語ります。その後の館内の見学では、学習サービス室で標本をゆっくり見たり、収蔵庫の中の民具や剥製、絵画や掛軸を収蔵する恒温庫、そして外へ飛び出し、周辺の樹木を観察する散歩をしました。今年度は子どもたちの意見を聞き、皆で話し合って決めるプログラムもあります。互いの意見に耳を傾け、相手の考えをよく聞く。疑問や心配があれば「声」を上げてみんなで考える。少数だからできることもあるような気がします。この一年の活動で私たち職員も子どもたちに寄り添い、学べる時間になればと願っています。

歴史館周辺の花々

春の花が野草園に彩りを添えています。散策をしている人も目に留めるのは、鮮やかな色の花。上の花は「ゴウダソウ（ルナリア）。ヨーロッパ原産で秋には小判形の実が成り、お日様の光を受け、美しく輝きます。下は林の中でひっそりと咲く「イカリソウ」。船の錨のイメージからの命名で別名の「三枝九葉草」は複葉の枚数によります。家の近所や散歩の途中にもし気になる花を見つけたら、色から引ける図鑑もあります。小さな発見は明日を豊かにしてくれるでしょう。

6月の予定

1	火	企画展開催中
2	水	夜の博物館前期講座第１夜
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	企画展最終日
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	ピチャリ１６２号発行
21	月	
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	ジュニア探検クラブ
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	

※６月の休館日はありません

野帳 (field book)

植物採集には欠かせない野帳は大事な仕事のパートナー。デザインも豊富でジュニア探検クラブでも使用しています。

編集後記　～tawagoto～

エゾハルゼミの声が響き渡るようになった。あたりでは新緑が明るく映えてきた。なんだか、春を飛び越え夏が近づいている感がする。そんな中、今年も町のデータを蓄積しようと、植物標本の作成のために、町内を走り回り、植物採集に勤しんでいる。鳥の声、虫の気配を全身で感じながら花を探し回っていると、近くでも、多様な生物の蠢きがあることに気付く。ともかく、少しでも多くの驚きに出会える調査になることを願う。　（やまだひさし）

Pichari ～ピチャリ～

第161号

令和3年5月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193　亀田郡七飯町本町６丁目１－３

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp